

響く美声 熱気は最高潮に!

## 第2回積丹町カラオケ大会

町内のカラオケ愛好会の共催による第2回積丹町カラオケ大会(能代谷政敏大会長)が10月14日、町総合文化センターで行われました。

これは、「神威岬」の編曲家である伊戸のりおさんを招き、カラオケを通じて明るいまちづくりを目指そうと昨年から開催されたもので、大会には町内から参加した32人が日頃の練習で鍛えた自慢のものを披露しました。

また、歌手の杉ひとしさんによる歌謡ショーや伊戸先生によるカラオケ指導などが行われ、会場は熱気に包まれていました。

なお、表彰者は次のとおりです。(順不同・敬称略)

### 【優秀歌唱賞】

鎌田千賀雄さん(美国町)

加藤 博明さん(幌武意町)

柏崎 稔さん(来岸町)

柏崎 壽子さん(来岸町)

山田扶紀子さん(余別町)

能代谷直子さん(余別町)

(デュエット)

### 【審査員特別賞】

佐藤 国夫さん(美国町)

高杉トシ子さん(美国町)

土井 知子さん(野塚町)

佐々木繁夫さん(西河町)

能代谷政敏さん(余別町)

山田 馨さん(余別町)



## 東しやこたん漁協積丹支所青年部 水産教室を開催

## 町内児童が一日漁師体験

東しやこたん漁業協同組合積丹支所青年部(角田拓也部長ほか部員24人)は、漁業をよ

り身近に感じ興味をもってもらおうと9月23日、町内児童を対象に水産教室を開きました。

この教室は学校の総合的な学習の一環として行われたもので、昨年に引き続き2回目となる今回は、町内3つの小学校から児童21人、教職員11人が参加、同青年部員20人が指導にあたりました。

児童らは、漁船3隻にそれぞれ乗り込み、青年部員が早朝に仕掛けておいたほっけ刺し網を起こしたり、上陸後は日司漁港荷捌所内で網にかかった魚の網はず

し作業を行ったりしました。その後ほっけ選別機により大きな選別、発泡に詰めるまでの一連の作業を体験しました。

参加した児童からは、「漁師になって一番うれしかったことは?」「漁師でも船酔いするの?」などの質問や「大きくなったら漁師になりたい。」などの頼もしい声も聞かれました。

角田青年部長は「今回は昨年の反省を踏まえ学校のニーズを聞くことで内容を充実させることができた。今後もどんな体験学習がよいか話し合いを深め一層内容を充実させていきたい。」と今後の取り組みを意欲的に話していました。

また、10月10日にはテレビ取



材が行われる中、余別小学校児童を対象にしたミニ水産教室を実施、青年部員の指導によりロープワーク学習や同部がいち早く生態調査や資源量調査に取り組んでいるナマコについて、実際に触れたり食べたりしながら生態について学習しました。

ナマコに触るのが初めての児童がほとんどで、ストレス等によりなまこが柔らかく伸びる様子に興味を示していました。



# 平成19年度 敬老会 町内608人の長寿をお祝い

平成19年度積丹町敬老会が9月20日、町総合文化センターで行われました。

この敬老会の対象は、75歳以上の方で608人の対象者の中、136人の方々が出席されました。

式典は、委員長の菊谷富彌積丹町自治会等連合会会長の挨拶に始まり、88歳の米寿を迎えられた13人のうち、この日出席された、木村テルさん(美国町)、今

井タケさん(日司町)、土屋工子さん(余別町)の3人に、益子町長より祝品が手渡され、長寿の節目を祝いました。またアトラクションでは、保育所児の遊戯や各地区婦人会の舞踊が行われたほか、敬老者自身によるカラオケなどが披露されると、高齢を感じさせない歌声に他の出席者や来賓からは盛大な拍手を浴びていました。

## 元気の秘訣聞きました！

### 木村 テルさん

「手芸や押し花、日本舞踊など趣味がたくさん。家族円満が大切です。」



### 今井 タケさん

「仕事が一番の生きがい。家族の会話を大切に、笑顔の絶えない毎日を送っています。」



### 土屋 エチさん

「毎日の家事と好きな花を植えている庭の手入れは欠かせません。」



## 美国中学校で積丹縦断遠足

雨・風の荒天 頑張って歩いた26km

美国中学校(塩見末巳津校長)

の「積丹縦断遠足」が9月21日、町内の国道229号など海岸線を沿うように行われ、1年生から3年生まで生徒58人、各担任の教職員3人が参加、行程26.6kmの距離で行われました。

これまで学年ごとであった遠足を、仲間意識や連帯感を育てようと今年から全校一斉に行つたもので、婦美町のグリーンホルデーを午前9時に出発。時折小雨が降り、強風の吹くあいにくのコンディションの中、生徒らはタイムを競って走ったり、生徒同士励まし合いながら歩いて完走を目指すなどそれぞれの



ペースで午後3時半の制限時間内にゴールの神威岬駐車場を目指しました。

午後に入り風の強さが増し、ゴール地点が変更になるハプニングもある中、予定のコースを完走した生徒が3人もいました。3時間20分のトップでゴールした大保拓真くん(3年)は「何度も帽子を飛ばされるほど風が強く前に進むのに大変だった。最後の長い坂道がとてつきつく気力と根性で乗り切った。ゴールした後は仰向けに倒れました。」と話していました。生徒の皆さんお疲れさまでした。

